

研究主題「自ら思考、判断し、豊かに表現できる児童の育成」

副主題～児童が自分ごと化できる特別の教科 道徳を通して～

研究仮説：道徳の授業における内容項目を理解させる手立てを工夫することで、児童が自ら思考、判断し、自分ごととして表現できる力を育成できるであろう。

児童の実態：本校の児童は、授業に対して同じスタートラインから始めることができない実態がある。休み時間のトラブルや友達同士の関係を消化できず、抱えたまま授業に参加している児童が多い。感情のコントロールができずその気持ちのまま授業に参加したり、人によって態度を変えてしまったりという課題がある。特別の教科道徳の「B主として人と人との関わりに関すること」を題材に、授業中に振り返りを記述しながら自分自身を見つめ直す活動を日々行う。授業の内容項目について受け止め、自分自身の過去や未来について振り返ることが、児童のよりよい学びにつながるのではないかと考える。

学年団	目指す児童像
低学年	内容項目を受け止め、生活に照らして振り返り、自分の考えを伝えられる児童
中学年	内容項目を理解し、自己の在り方について振り返り、表現できる児童
高学年	道徳的諸価値について理解し、自己の生き方についての考えを深め、表現できる児童

研究主題に迫るための工夫

2年計画の1年目

特別の教科道徳を通して取り組むこと

道徳以外の教科で
取り組むこと

児童が主体的に表現するには

(例) 展開部分での話型
思考ツール
グループ編成
継続性
学級文化など

児童自分ごと化して考えるには

(例) 校内全体での年間を通した振り返りの見取り
日常生活のふりかえり
ロールプレイ
教材の理解
導入の時間の工夫
本時のテーマ等に関する発問

授業以外で取り組むこと

日常的に各学級や学年で
継続して指導するには

(例) 日々の活動の振り返り
既習の題材や内容項目などの教室掲示
日常の様々な事項と関連付けた指導など